

百舌鳥・古市古墳群は、ユネスコの諮問機関の勧告により、第43回ユネスコ世界遺産委員会で登録が決定する見通しだ。古市は、古代から交通の要衝として人の往来が絶えない土地だったが、戦国時代に高屋城が築かれ、河内の中心地となっていた。その痕跡を探しながら地形散歩してみようと思っ。

近鉄古市駅の階段を下りた前を通る道は、古代の官道1号線ともいわれる竹内街道だ。駅の東側に隣接する鎮守の森は、古代神話の英雄・日本武尊を祀る白鳥神社で、その前に参りしてから参道のある鳥居をくぐり、前を通る東高野街道を進んでいく。

東高野街道は、京都と高野山を結ぶ南北に続く街道で、東西を通る竹内街道と交差する地点には、大きな道標がも残っている。

街道の風情を楽しみながら進み、集落が途切れたところ、踏切と背後に木々が生い茂る高台が現れる。踏切の先は緩やかな坂道になり、上りきった右側に古墳の森が現れる。この坂道は不動坂と言



掘の推定場所

## 「カサリ」大阪地形「カサリ」新之介

### 古市古墳群・高屋城跡をたどる 大阪府豊野市

# 独立丘陵活かし古墳に本丸

い、高屋城の北口におたふ場アクトとして存在していたので、東側には土塁跡が残っていた。当時の櫓が築かれていた。西側の高台には、不動坂の上る途中、自然地形の巖が残り、土塁の痕跡が残っていたが、土塁の痕跡だけが祀られている。近年の発掘調査で、この高台には前方後円墳があったことが分り、巴墳があったことが分り、城不動坂古墳と名付けられ、部が櫓で囲われていた。

高屋城は、応仁の乱以降に河内守護職にあった畠山氏によって築城されたという。石川の左岸に位置し、標高約40メートルの河段段丘で独立丘陵の形で三つに区切った連郭式の城郭であった。安閑天皇陵古墳を本丸とし、二の丸、三の丸と続く、南北約80メートル、東西約450メートルの規模で、古墳自体は緊急時に利用する場所であったようだ。

街道の東側は崖になっており、階段下に古市南小学校の体育館が見える。階段の途中に、上りながら階段があるので、そこを通り、崖沿いの道から住宅地を進んでいくと、緑の小山が見えてくるが、春日山田皇陵古墳とい、安閑天皇の皇后の陵墓だ。そこから少し進むと大きな道路が現れるが、この辺りまでかつての二の丸で、先に土塁と堀があった。昭和20年代までは痕跡が残っていたが、昭和30年代の宅地化により消滅している。東側に進むと急階段が現れる。高低差約7メートルの階段下には、さらに教壇の段差があり、自然要害であったことが実感できる。階段上から東方向き眺める

と「上山がっきり」が見えた。特徴のあるたたきんルエットは、古代からアクトとして存在していた

崖下にあるもうひとつ階段を上る途中、自然地形の巖が残り、土塁の痕跡が残っていたが、土塁の痕跡だけが祀られている。近年の発掘調査で、この高台には前方後円墳があったことが分り、巴墳があったことが分り、城不動坂古墳と名付けられ、部が櫓で囲われていた。

高屋城は、応仁の乱以降に河内守護職にあった畠山氏によって築城されたという。石川の左岸に位置し、標高約40メートルの河段段丘で独立丘陵の形で三つに区切った連郭式の城郭であった。安閑天皇陵古墳を本丸とし、二の丸、三の丸と続く、南北約80メートル、東西約450メートルの規模で、古墳自体は緊急時に利用する場所であったようだ。

街道の東側は崖になっており、階段下に古市南小学校の体育館が見える。階段の途中に、上りながら階段があるので、そこを通り、崖沿いの道から住宅地を進んでいくと、緑の小山が見えてくるが、春日山田皇陵古墳とい、安閑天皇の皇后の陵墓だ。そこから少し進むと大きな道路が現れるが、この辺りまでかつての二の丸で、先に土塁と堀があった。昭和20年代までは痕跡が残っていたが、昭和30年代の宅地化により消滅している。東側に進むと急階段が現れる。高低差約7メートルの階段下には、さらに教壇の段差があり、自然要害であったことが実感できる。階段上から東方向き眺める



## 熊野古道の往来

1のたくらみ  
300のたくらみ  
景観模型の世界

製作・景観模型工房／撮影・奥清博

熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されてから15年。神仏習合と浄土信仰の浸透で平安時代から多くの庶民が訪れ、日本人の観光旅行の原点といわれています。伊勢神宮から熊野三山に向かう伊勢路の中でも、最も美しい石畳が残っている「馬越峠」あたりを再現しました。弥次さん喜多さんが江戸からお伊勢参りに向かう参道中の「東海道中膝栗毛」に「伊勢へ七度熊野へ三度」とあります。2人が熊野古道を歩いた記述はありませんが、ちょっと寄り道させてみました。(盛口正昭 景観模型工房主宰)

しんすけ 昭和40年、大阪市生まれ。広告会社勤務。平成19年からプロク「十三いま昔を歩こう」を運営し、関西の歴史や地形に着目した「アドヴァン」を展開。25年に大阪高低差学会を設立。著書に『凹凸を歩む大阪「高低差」地形散歩』『凹凸を歩むしんすけ 淡路島「高低差」地形散歩』(ともに洋泉社)など。

「国のなりたち 珠玉の名」交声山 信時

改元の年 建国の調べ

写真＝宮城博日向市美の森「熊野古道の調子」



近鉄南大阪線の踏切の向こうの右側に見える森が城市不動坂古墳＝大阪府羽曳野市(筆者撮影)

り、北側に草木が生い茂る土形の手が残っている。この土手が、最後に、白鳥陵古墳に向かっで、堀は埋められ弧を描いたようにしているのだ。(大阪高低差学会代表)

### チケット好評発売中!

全席指定(税込み) ※未就学児入場不可  
S席=8,000円 A席=7,000円  
ユースチケット(25歳以下)4,500円

取り扱いオンラインガイド

●オンライン予約センター  
Tel.06-6453-2333

ナエセミナー

創業のための

バルの備え

参加者募集